

12. 教師教育用ビデオ教材に対するニーズ

— 国立教員養成系大学の教員を対象とした調査から —

川島 淳一・宮本 友弘

1. はじめに

放送教育開発センターでは、全国の国公私立4年制大学ならびに短期大学の教職課程において用いるためのビデオ・印刷教材の開発と制作及びその利用と評価に関する研究を目的として、1984年に「教師教育教材の制作と評価分析」プロジェクトを開始した。当時、わが国でもようやく大学における教授方法の改善に関する議論が始まった時期で、そのような動きの中で、教師教育の改善と充実に応えるための教材開発・制作と利用・評価等の活動は、きわめて意義あるものと考えられた。

この目的を達成するために、1984年にビデオ教材開発に対する全国の国公私立大学・短大の教職授業担当教員のニーズ調査が実施された（高橋，1986）。その結果を参考として、1985～1995年度までに、17シリーズ、総計106本のビデオ教材と関連印刷教材が開発・制作された。また、1995年6月までに、594の大学、短大、その他の教育機関によって総計16,378本のビデオ教材（1校平均28本）が購入され、教職課程の授業で利用されてきた。

こうした状況を踏まえ、本調査は、教職課程に携わる教員のニーズに関する最新のデータを収集し、1996年度以降の教師教育用教材の研究開発計画案の作成に資する目的で企画された。本調査では、調査実施上のさまざまな制約（調査時期、予算、サンプル数等）のために国立教員養成系大学の教員のみを対象とした。本報告はこのニーズ調査の結果をまとめたものである。

2. 調査の方法

調査対象 国立4年制の教員養成系大学全48校（大震災のため神戸大学を除く）のうち、教職授業担当教員（常勤）6,319名の中から、2,000名を抽出し調査対象とした。その際、「全国大学職員録 平成5年度版」（廣潤社）を基に、各校から1名ずつ無作為に抽出し、この試行を2,000名になるまで繰り返した。したがって、サンプルは49校にほぼ等しく分布しているとみなすことができる。当初、公立・私立大学、短期大学の教職授業の担当職員も対象として企画されたが、非常勤講師の数が多く、母集団を正確に特定できないことから本調査から除外した。

調査票 調査票は次の質問項目から構成された（付録1）。①被調査者の属性（所属大学、学部・学科、専門分野）、②本センターで制作された教師教育用ビデオ教材の関する認知の有無とその情報源、③本センターで制作されたビデオ教材の利用状況（利用したタイトルと授業科目）、有用度（4段階評定法）、今後の利用計画、④学生の個別利用の状況、⑤印刷教材の利用状況とその有用度（4段階評定法）、⑥各種印刷教材の必要度、⑦本センターで制作されたビデオ教材の利用希望状況（利用希望のビデオ・タイトル、授業科目、理由）、⑧今後のビデオ教材に対するニーズ（ニーズの高い教科と具体的な内容）、⑨ビデオ教材に対する意見、要望などの自由記述。なお、調査票への記入にあたっては、必要に応じて、添付された「放送教育開発センター制作ビデオ教材タイトル一覧」（付録2）を参照するよう指示した。

手続き 調査は1994年2月～3月にかけて郵送・質問紙法によって行われ、調査票一式を2,000名のサンプルに個別に送付し、回答を依頼した。また、調査締切り後1週間を経過しても回答のない場合には、督促状を送付した。なお、調査票の発送及び回収されたデータの集計は、外部委託によって行われた。

3. 調査結果の概要

(1) 有効回答率

最終締切り日までに、815名(40.8%)の教員から回答があった。このうち、データ分析に使用可能なものは778件であった。すなわち、有効回答率は38.9%であり、郵送・質問紙法による調査としては、満足すべき数字であるといえる。ちなみに、1984年の調査では、全体で2,382名のサンプルに対し509名(21.4%)から回答があり、国立大学教員からの回答は、241名のサンプルに対し99名(41.1%)であった。

また、回答は調査票を送付した全48校から得られ、学校別の平均は16.2件(SD=7.8)であった。回答者の専門分野については、表1に示したとおり、「教職課程の必修科目に関わる分野」(45.9%)とそれ以外の「一般分野」(54.1%)の2つに大きく別れる。「教職課程の必修科目に関わる分野」では、「学校教育」の合計が28.4%を占め、全教科に分布している。そのうち、特に「技術家庭」(5.0%)、「美術・音楽」(3.9%)、「保健体育」(3.7%)などの技能系の教科が多い。「学校教育」以外では、「教育学(基礎)」(6.5%)がもっとも多い。一方、「一般分野」では、「文科系」(21.1%)と「理科系」(18.4%)が大半を占めている。

(2) ビデオ教材の情報源と利用状況

本センター制作のビデオ教材について、778名の全回答者のうち、209名(26.9%)の教員が知っているタイトルが「ある」と答えた。また、情報源に関しては、209名の「ある」と回答した教員のうち、もっとも多かったものが「ビデオ教材紹介のパンフレット」(55.8%)、次いで、「放送教育開発センターの刊行物」(40.7%)であった(表2)。この結果から、利用機関への紹介パンフレット、センター刊行物などの印刷物の配付・宣伝は、ビデオ教材の購入・利用促進のためにきわめて重要であるといえる。

ビデオ教材の利用に関しては、63名の教員が過去3年間に少なくとも1本のビデオ教材を利用したと回答した。この63名の利用者数は全サンプル数からみると非常に少ないものの、先述した209名のビデオ・タイトルを知っている教員のうちの30.1%を占める。したがって、ビデオ教材の存在をもっと広く知らせる努力をするならば、利用者数はもっと増加するものと思われる。また、この63名の専攻分野をみると、最も多かったのが、「教育学(基礎)」16名、次いで、「幼児教育・保育」7名、「特殊教育」7名、「理科」6名であった。表1に示したサンプルの専門分野別の分布と比較すると、これらの分野を専門とする教員はビデオ教材を利用する傾向が高いことが推測される。

表1 回答者の専門分野別人数

専門分野	人数	%
教職課程の必修科目に関わる分野	(計 346)	45.9)
教育学 (基礎)	49	6.5
学校教育	(計 214)	28.4)
国語	20	2.7
数学	13	1.7
理科	26	3.4
社会	22	2.9
英語	20	2.7
美術・音楽	29	3.9
保健体育	28	3.7
技術・家庭	38	5.0
その他	18	2.4
幼児教育・保育	24	3.2
特殊教育	32	4.2
教育心理・教育相談	27	3.6
一般分野	(計 408)	54.1)
文科系	159	21.1
理科系	139	18.4
体育系	25	3.3
芸術系	37	4.9
技術・家庭系	37	4.9
保健・医療系	11	1.5
合計	754	100.0

表2 放送教育開発センター制作のビデオ教材に関する情報源 (複数回答可)

情報源	件数	% (N=209)
放送教育開発センターの刊行物	85	40.7
ビデオ教材紹介のパンフレット	116	55.5
同僚教員の推薦	28	13.4
その他	24	11.5

表3は、1994年4月から本調査日までの約1年間で、63名の教員が利用したビデオ教材のうち、上位10位までのタイトル名、利用者数、有用度、今後の利用計画を示したものである。ビデオタイトルをみると、全体的に「教育実習」と「教育の方法及び技術」に関するものが大半を占めている。いずれも特定の教科に依存しない、授業一般の基礎的な技能の習得に関わるものであり、教職課程の授業においてはこうした内容のビデオ教材の利用可能性が高いことがうかがえる。また、「特殊教育」や「保育」に関するもの利用者数も多いが、前述したセンターのビデオ教材を利用した教員63名のうち、これらの分野を専門とする教員が多かったことが反映されたものと考えられる。

有用度に関しては、4段階評定（4－非常に役立つ～1－全く役立たない）であることから、全体的に高く評価されている。また、今後の利用計画においても、ほとんどの利用者が「はい」と回答している。

表3 ビデオ教材の利用者数、有用度、今後の利用計画（上位10位）

ビデオタイトル	利用者数	有用度 (平均)	今後の利用計画 「ある」の人数
特殊教育－聴覚をいかに－	6	3.3	6
教育実習の日々－附属小学校編－	5	3.2	5
教育実習の日々－附属中学・高校編－	5	3.5	3
教育の方法及び技術－授業の記録と分析－	5	3.0	4
教育実習の日々－公立中学校編－	4	3.5	4
実習生の授業－中学校・理科第一分野－	4	3.0	4
教育の方法及び技術－授業の仕組みとはたらき－	4	2.8	2
教育の方法及び技術－授業のスキル－	4	3.8	3
保育実習の日々－幼稚園－	4	3.5	3
担任の先生の研究保育	4	3.3	3

表4は、センターのビデオ教材を知っていると回答した206名のうち、過去3年間の授業においてビデオ教材の利用者（63名）と非利用者（146名）ごとに、学生に対するビデオ教材の個別利用の指導状況をまとめたものである。利用経験の有無によって指導状況の人数の分布が異なっていることがわかる。ちなみに、「無回答」を除いて χ^2 検定を行ったところ、回答分布に有意な偏りが認められ〔 $\chi^2(2) = 12.65, P < .01$ 〕、残差分析の結果、「授業で学生に見せ、さらに個別に視聴することを勧めた」の人数が、ビデオ教材の利用者では有意に多く、非利用者では少なかった。このことから、学生に対するビデオ教材の個別利用の指導については、教員のビデオ利用の経験の有無が影響しているといえる。

表4 学生に対するビデオ教材の個別利用の指導状況

	ビデオ利用者	非利用者
授業で学生に見せ、さらに個別に視聴することを勧めた	23	20
授業で利用しなかったが、個別に視聴することを勧めた	10	36
個別に視聴することを勧めたことはない	28	76
無回答	2	14
計	63	146

(3) 印刷教材の有用度・必要性

ビデオ教材を利用したことのある63名の教員のうち、65.1% (41名) が印刷教材を利用したことが「ある」と回答した。さらに、印刷教材の有用度に関しては、41名のうち、80.6%が印刷教材は「役立った」、14.6%が「非常に役立った」と評価した(表5)。

表5 印刷教材の有用度

	非常に役立った	役だった	あまり役立たなかった	全く役立たなかった	無回答	計
人数	6	33	1	—	1	41
%	14.6	80.6	2.4	—	2.4	100.0

各種印刷教材の必要度については、全回答者778名のうち、28.8%が「学生用テキスト」、24.7%が「教員用利用の手引き」、14.4%が「学生ワークブック」をそれぞれ第一位に順位づけた(表6)。これらの結果から、各ビデオ教材に対し、授業者のさまざまな利用形態に対応した各種の印刷教材の開発・作成が重要であると考えられる。これまでは、教員用の印刷教材が作成されたが、今後は学生用の教材を作成することが必要であろう。

表6 各印刷教材の必要度(第一位に付けた人数)

	人数	% (N=778)
学生用テキスト	224	28.8
学生用ワークブック	112	14.4
教員用利用の手引	192	24.7

(4) 将来利用希望のビデオ教材

表7は、本センターがこれまで制作したビデオ教材の中で、回答者が「教職課程の授業において将来利用したいと思われるタイトル」の上位第10位までを示したものである。これらのタイトルをみると、「教育の方法及び技術」に関するものが上位を占めている。それらのリストは表3に示した利用数の多いビデオタイトルと重複しており、先に述べたように、授業一般の基礎的な技能の習得に関するビデオ教材は、教職課程の授業においてはその利用可能性が高いものと考えられる。また、表7からは、「コンピュータ」や「生活科」など、新しい内容に関するニーズも高いことがわかる。

表7 将来利用を希望するビデオ教材（上位10位）

ビデオタイトル	人数
教育の方法及び技術－授業の記録と分析－	35
教育の方法及び技術－授業のスキル－	30
教育の方法及び技術－授業の仕組みとはたらき－	29
教育の方法及び技術－授業を創る－	27
ある教師の授業－小学校・理科－	25
教育の方法及び技術－黒板、カード、OHPの活用－	25
情報基礎入門－これがパソコンだ－	25
生活科－地域協力のある授業例と年間計画－	23
教育実習の日々－公立中学校編－	21
教育と施設－学校が変わって来た－	21

(5) ビデオ教材に対するニーズ

教職課程に関わる授業でビデオ教材が必要だと思われる科目のうち、上位10位までを示したものが表8である。これをみると、教科教育に関するものが大半を占めているが、「技術・家庭」、「保健体育」、「音楽」、「美術」など、これまであまりビデオ化されてこなかった教科でのニーズも高いことがわかる。また、「具体的な内容」に関する自由記述をみると、いずれの教科においても、教育実習や基礎的な技能、たとえば、理科の「実験の仕方」などの意見が多く、先の利用希望の結果と同様の傾向がみられた。

教科教育以外では、「教育心理」、特に「教育相談」などにおけるニーズが高い。これは、現在の教育問題が教科指導から生活指導にその中心を移行させつつあることを反映した結果であると考えられる。「特殊教育」については、これまでのビデオ教材の利用状況からも判断して、確実に高いニーズがあるものといえる。

表8 ビデオ教材に対する教職課程の授業科目別のニーズ（上位10位）

授業科目	人数
教科教育－技術・家庭	64
教科教育－理科	47
教育心理・教育相談	47
教科教育－保健体育	46
教科教育－音楽	41
教科教育－国語	37
教科教育－社会	36
教科教育－英語	34
教科教育－美術	33
特殊教育	30

4. まとめ

本調査の結果から、今後の教師教育教材の開発・制作の方向性を検討してみたい。

まず、「教科指導」に関しては、教育実習と授業の基礎的な技能の映像化を各種教科において展開していくことが必要である。教育実習については、これまで制作したものの改訂版と従来の教科に加え、「技術・家庭」、「保健体育」、「音楽」、「美術」においても新たに教材を開発していくことが考えられる。また、授業の基礎的な技能については、指導・実践例を単純に映像化するのではなく、特定の技能をテーマ化して、それに基づくさまざまなプロトタイプ（原型）教材を同一の素材から開発していくことが考えられる。そのためには、各教科の授業における基礎的な技能についてのリストが必要であり、授業研究を事前に十分に行っていかなければならないであろう。さらに、現在のマルチメディア環境の整備に伴い、教科にかかわらず「情報処理」に関する技能が、従来の教員の基礎的な技能に追加されつつある。この点については、「教師教育教材の制作と評価分析」プロジェクトを本センターでの他のメディアに関連したプロジェクトと連携して遂行していくことが望まれる。

「教科指導」以外では、「生活指導」に関するビデオ教材の開発も急務である。「いじめ」や「不登校」などは、現在、深刻な問題になっており、現場の教師にはカウンセリングなど「教育相談」に関わる技術がますます求められている。もちろん、映像化にあたってはこの種の内容はさまざまな問題があるが、本プロジェクトが教師教育の改善と向上を目的として標榜している以上、今日的課題にも対応していかなければならないであろう。

印刷教材については、学生用と教員用のものが必要である。両方の同時開発は予算的にも時間的にも難しいが、特定のテーマに絞ったビデオ教材に対しては可能であると思われる。

さて、本調査の結果から示唆される重要な点の一つとして、ビデオ教材に関する情報の重要性をあげることができる。すなわち、本ビデオ教材を知っている教員は、少なくともその3割程度は積極的に利用しているものの、全体のサンプルに対しては著しく少数である。このことは、「知っている」ことが「利用する」ことにつながることを物語っている。したがって、今後は「教師教育教材の制作と評価分析」プロジェクトの目的を遂行していく上で、いかにビデオ教材を広く告知していくかも重要な課題である。

以上、いくつかの方向性について検討してきたが、今後の教師教育用ビデオ教材の研究開発計画の作成に際しては、当面、教育実習から教育現場における各種教科の指導・実践例を中心としたプロジェクトを体系的に企画することが先決であろう。それと並行して、将来のビデオ教材のプロトタイプ（原型）となるような試作品を、形成的評価に基づいて開発・制作することが望まれる。

引用文献

高橋勉 1986 教師教育教材に対する必要性（Need）調査について MMEノート，32，7-29.

付 録 1

平成7年2月15日

各 位

大学共同利用機関
放送教育開発センター・研究開発部
教材研究室室長・教授

川 島 淳 一

「教師教育用教材の利用とニーズに関する調査」について（依頼）

拝啓、時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

放送教育開発センターでは大学における教師教育の改善と充実に応えるべく、昭和60年度より、全国の教員養成系大学及び大学・短大の教職課程において利用するためのビデオ・印刷教材を開発・制作し、その利用と評価に関する研究を行ってまいりました。これまで、90タイトル以上のビデオ教材を制作し、全国の大学や短大で広く利用されております。

さて、この度、大学の教職課程における当センター制作のビデオ教材の利用状況とそのニーズを調査し、今後の教材企画のための資料を得たいと考えております。つきましては、ご多忙中誠に恐縮ですが、本調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご記入後の調査用紙は同封いたしました返信用の封筒にて、3月3日までにご返送くださるようお願い申し上げます。

敬 具

問い合わせ先：放送教育開発センター・研究開発部
教材研究室・助手 宮本友弘
電話 043-276-1111 (内2348または2363)
FAX 043-274-3200

4 当センターのビデオ教材には印刷教材が添付されていますが、それらの印刷教材を利用したことがありますか。

1. ある

2. ない

* 「ある」と答えた方にお聞きします。

ビデオ利用の際に役立ちましたか。

1. 非常に役立った
2. 役立った
3. あまり役立たなかった
4. 全く役立たなかった

* 「ない」と答えた方にお聞きします。

利用しなかった理由をお書きください。

()

5 ビデオ教材の利用にあたってとくに必要だと思われる印刷教材に順位を付けてください。

順位 (必要順に 1, 2, 3 …)

- | | |
|--------------|-----|
| 1. 学生用テキスト | () |
| 2. 学生用ワークブック | () |
| 3. 教員用利用の手引き | () |
| 4. その他 () | () |

6 別表のビデオ教材のリストの中で、まだ利用していないもののうち、教職課程の授業において将来利用したいと思われるタイトルを3つお選びください。また、各タイトルについて、利用したい授業科目名及び選んだ理由をお書きください。

番号	授業科目名	理 由
<input type="text"/>	_____ ()	()
<input type="text"/>	_____ ()	()
<input type="text"/>	_____ ()	()

7 別表にないビデオ教材で、教職課程の授業で必要だと思われるビデオ教材の教科名 (3つ以内) 及び具体的な内容をお書きください。

授業科目	具体的な内容
_____ ()	()
_____ ()	()
_____ ()	()

8 当センターの教師教育用ビデオ教材についてご意見・ご要望がありましたら、簡潔にお書きください。

()

ご協力ありがとうございました。

番号	授業科目名	有用度				今後の利用計画
		非常に 役立つ	かなり 役立つ	あまり 役立つ ない	全く 役立つ ない	
<input type="text"/>	_____	4	3	2	1	(1. ある 2. ない)
<input type="text"/>	_____	4	3	2	1	(1. ある 2. ない)
<input type="text"/>	_____	4	3	2	1	(1. ある 2. ない)
<input type="text"/>	_____	4	3	2	1	(1. ある 2. ない)
<input type="text"/>	_____	4	3	2	1	(1. ある 2. ない)

付録 2

別表

放送教育開発センター制作ビデオ教材タイトル一覧

番号	ビデオタイトル名	番号	ビデオタイトル名
	教育実習の日々シリーズ	25	高校教師一年生
01	教育実習の日々 一附属小学校編一		教育の方法及び技術シリーズ
02	教育実習の日々 一附属中学・高校編一	26	教育の方法及び技術 一新しい教育の創造一
03	教育実習の日々 一公立小学校編一	27	教育の方法及び技術 一授業の仕組みとはたらき一
04	教育実習の日々 一公立中学校編一	28	教育の方法及び技術 一授業を創る一
05	教育実習の日々 一公立高校編一	29	教育の方法及び技術 一教育メディア一
	授業の記録〈実習生の授業〉シリーズ	30	教育の方法及び技術 一黒板、カード、OHPの活用一
06	実習生の授業 一小学校・国語一	31	教育の方法及び技術 一コンピュータ技術と教育一
07	実習生の授業 一小学校・算数一	32	教育の方法及び技術 一教師を助けるコンピューター一
08	実習生の授業 一中学校・英語一	33	教育の方法及び技術 一映像教材の制作一
09	実習生の授業 一高校・国語一	34	教育の方法及び技術 一授業の記録と分析一
10	実習生の授業 一小学校・理科一	35	教育の方法及び技術 一授業のスキル一
11	実習生の授業 一中学校・理科第一分野一	36	教育の方法及び技術 一授業におけるメディアの活用一
12	実習生の授業 一中学校・数学一	37	教育の方法及び技術 一学習を助けるコンピューター一
13	実習生の授業 一高校・理科 I (生物) 一	38	教育の方法及び技術 一学校とコンピューター一
14	実習生の授業 一高校・地理一	39	教育の方法及び技術 一情報機器の種類と機能一
15	実習生の授業 一小学校・体育一		メディア・ミックスの授業シリーズ
	授業の記録〈ある教師の授業〉シリーズ	40	メディア・ミックスの授業 一小学校 6年・社会科一
16	ある教師の授業 一小学校・算数一	41	メディア・ミックスの授業 一小学校 5年・総合学習一
17	ある教師の授業 一小学校・理科一	42	メディア・ミックスの授業 一中学総合学習 (琵琶湖学習) 一
18	ある教師の授業 一中学校・数学一	43	メディア・ミックスの授業 一中学 3年選択社会科一
19	ある教師の授業 一高校・地理一	44	メディア・ミックスの授業 一高校 1年・社会科一
20	ある教師の授業 一高校・理科 I (生物) 一	45	メディア・ミックスの授業 一総合選択制高校一
21	ある教師の授業 一小学校・体育一		授業を生かすコンピュータ・シリーズ
22	ある教師の授業 一高校・世界史一	46	授業を生かすコンピュータ・ひきざん 一小学校 1年・算数一
23	ある教師の授業 一高校・国語 I 一	47	授業を生かすコンピュータ・図形の法則の発見 一小学校 6年・算数一
24	ある教師の授業 一高校数学・基礎解析一	48	授業を生かすコンピュータ・のりものではたらく人びと 一小学校 2年・社会科一

番号	ビデオタイトル名	番号	ビデオタイトル名
49	授業を生かすコンピュータ・円と正多角形 —小学校5年・算数(その1・その2・その3)—		教育と施設シリーズ
50	授業を生かすコンピュータ・天びん —小学校4年・理科—	74	教育と施設 —学校が変わって来た—
	教育とコンピュータ・シリーズ	75	教育と施設 —開かれた学校—
51	教育とコンピュータ —イラストを描く—	76	教育と施設 —未来の学校—
52	教育とコンピュータ —文をつくる—		特殊教育シリーズ
53	教育とコンピュータ —航空機の座席予約—	77	特殊教育 —聴覚をいかす—
54	教育とコンピュータ —理科とクラブ活動—	78	特殊教育 —精神薄弱児の教育とコンピューター—
55	教育とコンピュータ —コンピュータソフトの使い方—	79	特殊教育 —点字で学ぶ—
	体育の授業シリーズ		特別活動シリーズ
56	体育 —器械・器具を使つての運動— 固定施設あそび(小学校 低学年)	80	特別活動・生徒会活動 —3年生を送る会—
57	体育 —器械・器具を使つての運動— 鉄棒あそび(小学校 低学年)	81	特別活動・学年活動 —学級委員会と2年まとめの会—
58	体育 —鉄棒運動— さか上がり(小学校 中・高学年)	82	特別活動・課外クラブ活動 —2中野球部の場合—
59	体育 —鉄棒運動— ひざかけ上がり(小学校 中・高学年)	83	特別活動・学級活動 —2年4組誕生—
60	体育 —水泳— 水遊び(浮く・泳ぐ)	84	特別活動・学級活動 —学級開き—
61	体育 —水泳— クロール		生活科シリーズ
62	体育 —水泳— 平泳ぎ	85	生活科 —授業の準備と心がまえ—
	模擬授業シリーズ	86	生活科 —授業をふりかえる—
63	マイクロティーチング —京都教育大学の実践—	87	生活科 —地域協力のある授業例と年間計画—
64	マイクロティーチング —東京工業大学の実践—		情報基礎シリーズ
65	マイクロティーチング —教育実習校における実践—	88	「情報基礎」入門 —これがパソコンだ—
66	マイクロティーチングの方法	89	「情報基礎」入門 —学習指導要領と実践例—
67	マイクロティーチング —岡山大学の実践—		学校・学級の経営シリーズ
	幼稚園シリーズ	90	楽しい学級目ざして (1)係をきめる
68	保育実習の日々 —幼稚園—	91	楽しい学級目ざして (2)誕生日パーティー
69	実習生の研究保育	92	新学期へのスタート ～東金市立鶴嶺小学校～
70	担任の先生の研究保育	93	わが校の国際理解教育
71	幼稚園の生活 —上・下—		
72	幼稚園の一日 —環境とのかかわり—		
73	幼稚園の一日 —クリスマスツリーをつくる—		